

AOS Japan 2014年4月6日 例会

特別講演と会員発表の演題と抄録

特別講演

築瀬 武史 先生 公益社団法人 日本歯科先端技術研究所

Maxillary Sinus Augmentation のための診断と手技

インプラント関連材料の進歩により、インプラント適応症例は飛躍的に拡大をした。特に上顎臼歯部においては水平的、垂直的に骨量が乏しく、従来では不適応であった症例も Maxillary Sinus Augmentation を併用することにより、施術が可能になった。Maxillary Sinus Augmentation は、crestal approach と lateral approach に大別される。一般的に単独や少数歯欠損や確実な初期固定が可能な垂直的骨量の症例は crestal approach が行われ、多数歯欠損や母床骨の垂直的骨量が極端に乏しい症例は lateral approach が行われる。crestal approach は外科的侵襲も少なく、簡易的な手技に推察されるが、実は上顎洞粘膜を明視野で挙上するわけではなく、粘膜の損傷を防ぐより熟達した確実な手技が求められる。lateral approach は外科的な侵襲は大きいが見視野にて粘膜の剥離、挙上を行うことができ、また術者が自分の行っている施術状況を肉眼的に確認できる。つまり、crestal approach と lateral approach の難易度に差はないと言えよう。では、Maxillary Sinus Augmentation を成功させるためには何が・・・？それは適正な診療計画である。CT による上顎洞の術前診断、患者の全身および上顎洞の risk factor の把握、確実性の高い手技、CGF や骨補填材の選択・使用、術中・術後感染の予防、一口腔単位の歯科治療などのファクターがある。今回、上顎洞の診断ならびに手技の講義を行いたい。限られた時間ではあるが、ご参加いただける先生とディスカッションを行い、月曜日からの臨床の一助となれば幸甚である。

1984年 神奈川歯科大学 卒業

1987年 ヤナセ歯科医院 開院

1998年 医学博士 (東京医科大学 第1525号)

2004年 日本口腔インプラント学会 指導医 (第148号)

2008年 神奈川歯科大学 客員教授

社団法人 日本歯科先端技術研究所 会長

2012年 日本口腔インプラント学会 関東・甲信越支部長

公益社団法人 日本歯科先端技術研究所 会長

神奈川歯科大学 客員教授・東京医科大学 医学部 客員講師（法医学教室）

聖マリアンナ医科大学医学部法医学講座 非常勤講師

公益社団法人 日本口腔インプラント学会

関東甲信越支部支部長・理事・代議員・総務委員会 副委員長

専門医制度推進委員会 副委員長・認定委員会 委員・倫理委員会 委員

埼玉県警察協力医

江 黒 徹 公益社団法人 日本歯科先端技術研究所

”上部構造”を再考する

Clinical application of the implant superstructure using CAD/CAM

当初、インプラントの上部構造固定様式はスクリーリテインを中心に紹介されていたが、その要求精度やコストの問題から、セメントリテインへと移行し広く普及したように思う。インプラント治療の本来の目的は義歯からの解放であり、固定性補綴による臼歯部での咬合支持を回復することであったはずだが、審美性を追求し、より天然歯に近い形を再現しようという流れのなかで、歯肉縁下へのセメント流入・取り残しといった問題が生じ、近年、スクリーリテインに回帰する傾向にある。その一助となったのが金属の高騰と CAD/CAM 技術の発展である。これまでのカスタムアバットメント作製法では金属を鋳接する必要があり、歯肉縁下で多種の金属が接することによる生体親和性とその精度が課題であった。CAD/CAM によりチタンやジルコニアをミリングすることで上部構造をカスタムメイドすることが可能となり、その精度はより向上している。近年ではカスタムアバットメントと最終上部構造を一体として設計・作製する方法も報告されている。

今回、頂戴した貴重な時間のなかで、最近の上部構造について先生方と一緒に再考できたらと考えている。

略歴

昭和	63	3	埼玉県立熊谷高等学校卒業
	63	4	日本歯科大学歯学部入学
	6	3	日本歯科大学歯学部卒業
	6	4	日本歯科大学大学院歯学研究科入学
平成	10	3	日本歯科大学大学院歯学研究科修了（歯学博士）
			職 歴
	10	4	日本歯科大学歯学部歯科保存学教室第2講座 臨床研究生
	13	1	日本歯科大学歯学部歯科保存学講座 助手
平成	13	4	日本歯科大学附属歯科専門学校 衛生士科 講師（併任）
	15	4	日本歯科大学歯学部歯科保存学講座 講師
	17	3	日本歯科大学歯学部歯科保存学講座 退職
	17	4	江黒歯科クリニック 開業
			公益社団法人日本歯科先端技術研究所 総務担当専務理事
			日本歯科保存学会 保存治療専門医 指導医 代議員
			日本レーザー歯学会 レーザー治療認定医・指導医 代議員
			日本口腔インプラント学会 インプラント専門医・指導医 代議員
			日本歯科理工学会 デンタルマテリアルズアドバイザー
			日本歯科大学生命歯学部 接着歯科学講座 非常勤講師

会員発表①～⑥

① 今宮圭太 先生

演題：破折インプラント除去の一症例

最近では自院に初診で来院された患者さんのパノラマにインプラントが植立された像をよく目にするようになりました。破折や周囲炎により除去を余儀無くされるケースも多々あります。中にはメーカーのわからないものやすでに製造中止されたものもあります。ここ数十年の間に植立された様々なインプラントを除去してリカバリーする仕事が今後たくさんあるでしょう。除去後、咬合を回復するために最小限の侵襲でスマートに処理する方法の確立が急務と感じています。

② 柴垣博一 先生

演題：インプラント治療は、QOLに貢献しているか！

③ 室木貴行 先生

演題：インプラント禁忌 ブラキシアーの患者さん3年経過による

ディスインテグレーションの出現

インプラント禁忌とよばれる症状を持っておられる患者さんに対してもインプラント治療を行う事もあると思われれます。

この度ブラキシアーの患者さんに治療した複数本のインプラントが動揺を始め、事前に回避することが出来たのかを問いたいと思います。

④ 藤村哲彦 先生

演題：インプラントおよび矯正治療を用いた一例

⑤ 榊原毅 先生

演題：インプラント合併症を極力回避することをめざした上部構造

インプラントの上部構造についてどういうものが理想的なのか、まだはっきりしていない。現在私たちが作製しているインプラント上部構造について、どのように考えてその術式を選択しているかを整理し、述べたいと思います。